

## 大村の郡三踊

大村市の秋祭りで行われる 3 つの伝統的踊りは、1480 年に領主大村純伊（生没年不詳）が数年の追放の後勝利して当藩に帰郷したことを祝うものである。純伊は、これより 6 年前に近隣の島原半島を統治していた有馬一族との戦いで敗北を喫した後、再び決戦を行うために戻ってきた。反撃は成功し、純伊とその部隊は、ついに大村藩の領地を奪還することができた。黒丸、沖田、寿古地区の踊りは、それぞれ、この勝利を祝うものと言われている。

黒丸踊りでは、伝統的な鼓、笛、鉦を演奏する演奏者を伴い、小学生の男の子が踊る。大人の踊り手 4 人が手作りの紙でできた花がちりばめられた竹が付いた大花輪を背中にぴったりと背負いながら、「鼓」を演奏する。重さ約 60 キロ、直径 5 メートルの大花輪は、竹の骨の上に扇形に広がっており、まるで傘のようである。大花輪の広がった骨部分の下を通ると幸運が訪れると信じられている。

沖田踊りでは、子供たちが様式化された戦の舞を踊る。年長の子供たちが「なぎなた」を持ち、年少の子供たちが「小太刀」と呼ばれる短い刀を持つ。踊り手は、鼓や笛を伴い、攻撃的な動き、守備的な動きをする。

寿古踊りでも、子供たちが様式化された戦の舞を踊る。着物、笠（むぎで編まれた帽子）に身を包み、2 列に平行に並んで踊り、領主大村純伊の従者を表している。藩主の装いをした 1 人の踊り手が先導し、「鼓」を叩いて拍子をとる。その先導役の踊り手の顔は、半月形のモチーフをかたどった、ベールで被われた頭飾りで隠されている。

3 つの踊りは、毎年 10 月または 11 月に開催される大村市の秋祭り中に大村公園で行われる。歴史的記録によると、これら踊りは最初に行われたときからほとんど変わっていない。黒丸踊りと沖田踊りは、2022 年にユネスコ無形文化遺産に登録された。これら 3 つの踊りはすべて、日本の重要無形民俗文化財に指定されている。

030-703